

平成30年度第39回
東京都トラック協会ドライバー・コンテスト
学 科 競 技
問 題

【出題内容】

- I 法 規：問 1 ～問 4 0
- II 構造機能：問 4 1 ～問 6 0
- III 運転常識：問 6 1 ～問 8 0

競 技 上 の 注 意

この競技は、運転者に必要な関係法規やプロとしての一般的な知識について試問するものです。

また、この試問は、11トン・4トン・2トン・女性及びトレーラ部門共通となっています。

注意事項

- ① 問題は全部で80問です。
- ② **制限時間は60分です。**
- ③ 解答はすべて別紙の解答用紙に、「正しい」と思うものについて、解答用紙の同じ問番号の枠内に「○」印を、「誤っている」と思うものについては「×」印を下記要領により記載すること。（四肢選択式問題は「○」のみの記載でよい）

《例》

【四肢択一問題】

問	選択肢			
	1	2	3	4
1		○		
2			○	

【○×正誤式問題】

問	答
12	○
13	×
14	×

- ④ 解答用紙には、鉛筆を使用し、誤って記載した場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ⑤ 解答用紙には必ず競技部門、受験番号、氏名を記載すること。
- ⑥ **この問題用紙は試験開始の合図があるまで開けないこと。**
- ⑦ 印刷の不鮮明なところがあれば、着座のまま静かに手を挙げて係員に尋ねること。ただし、問題の内容に触れるものには回答しません。
- ⑧ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑨ 試験開始45分を経過しましたら退席できます。11時45分になりましたらお知らせします。解答用紙は壇上までお持ちください。他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。一度退席したら再度入室は出来ません。
- ⑩ 終了時間については、終了5分前に予告します。

平成30年7月7日（土）
於 東京都トラック総合会館

I 法 規（40問）

【4 肢択一式問題】

問 1. 「駐車禁止場所」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 火災報知機から 3 メートル以内の部分
- イ 人の乗降、貨物の積卸し、駐車又は自動車の格納若しくは修理のため道路外に設けられた施設又は場所の道路に接する自動車用の出入口から 3 メートル以内の部分
- ウ 道路工事が行なわれている場合における当該工事区域の側端から 5 メートル以内の部分
- エ 消火栓、指定消防水利の標識が設けられている位置又は消防用防火水槽の吸水口若しくは吸管投入孔から 5 メートル以内の部分

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問2. 灯火に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 一般道路（幅員が5.5メートル以上の道路）において、夜間にやむを得ず道路に駐停車するときは、非常点滅表示灯などを点灯するほか、停止表示器材を置かなければならない。
2. 昼間でも、トンネルの中や濃霧などで視界が100メートル以下（高速自動車国道及び自動車専用道路では200メートル以下）のような暗い場所を走行するときは、灯火をつけなければならない。
3. 自動車は夜間に走行するときは、前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯及び室内照明灯をつけなければならない。
4. 夜間に対向車とすれ違うときは、前照灯を減光するか照射方向を下向きとする。

問3. 運転免許に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 第一種の運転免許には、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、小型特殊免許、大型二輪免許、普通二輪免許、原付免許、けん引免許がある。
- イ 普通免許を取得して1年を経過しなければ準中型免許は取得できない。
- ウ 準中型免許は20歳に満たない者は取得できない。
- エ 準中型免許を取得すれば、最大積載量5トン未満までのトラックを運転できる。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問 4. 「駐車」に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。
解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 人の乗降のための停止は駐車とはならない。
- イ 車の故障による継続的な停止は、やむを得ないので駐車とはならない。
- ウ 貨物の積卸しのための停止で5分を超えない時間内のものは駐車とはならない。
- エ 運転者が直ちに運転できる状態であれば、荷待ちの場合などに長時間道路上に車を止めても駐車とはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 5. 「追越しを禁止する場所」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 車両通行帯の設けられていないトンネル内は追い越してはならない。
- イ 道路のまがりかどから30メートル以内は追い越してはならない。
- ウ 勾配の急な上り坂で、見とおしもよく対向車もいなかったのに速度の遅い前車を追い越した。
- エ 交差点の前後30メートル以内は追い越してはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問6から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問6. 自動車を運転中一方通行の道路で緊急自動車が近づいてきた場合、左側に寄るとその通行を妨げると思ったので、右側に寄って徐行した。
- 問7. 貨物自動車に積載できる貨物の長さの限度は、自動車の長さにその長さの10%の長さを加えたものである。
- 問8. 交差点直近の横断歩道の設けられていない場所で、歩行者が道路を横断しているときは、警笛を鳴らして注意を促しながら進行する。
- 問9. 高速自動車国道等における車間距離の保持の規定に違反となるような行為をした場合における罰則は、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金である。
- 問10. 道路外施設に出入りするために歩道を横切るときは、歩行者がいなくても歩道の手前で一時停止する。
- 問11. 対面する信号が青色の場合は、前方の交通状況にかかわらず、交差点に進入することができる。
- 問12. 通行する車両通行帯が進路変更の禁止を表示する道路標示で区画されていても、緊急自動車に進路を譲るためであれば進路変更することができる。
- 問13. 交差点を左折するとき、横断歩行者や自転車がいなかったことがあきらかな場合には徐行しなくてもよい。

- 問14. 交差点以外における横断歩道、自転車横断道並びに踏切がないところで手信号による信号をしているときの停止位置は、手信号を行っている警察官や交通巡視員の1メートル手前である。
- 問15. 走行中に携帯電話やスマートフォンなどで会話をすることは禁止されているが、メールの送受信のために画面を注視することは禁止されていない。
- 問16. 呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上の酒気帯び運転は処罰の対象となるが、それに達しない場合であっても、酒気を帯びて運転すれば違反となる。
- 問17. 横断歩道の手前の直前で停止している車両の側方を通過するときは、徐行して安全を確認しながら進行しなければならない。
- 問18.  この標識のある道路は、車両総重量が5,500キログラムの車両の通行はできない。
- 問19. 徐行の道路標識等がない場合でも、上り坂の頂上附近は徐行しなければならない。
- 問20. 運転者には、走行中は、前の車が急に停止したときでも、追突を回避できる車間距離を保持することが義務づけられている。
- 問21. 交差点内で緊急自動車が近づいてきたときは、交差点を避け、かつ、道路の左側に寄って一時停止しなければならない。
- 問22. 時間が指定されている路線バスの優先通行帯は、指定された時間内に限り、路線バス以外の車両（軽車両を除く）は一切通行できない。
- 問23. 目が見えない人が白色のつえを携えて通行しているときは、車両は一時停止

か徐行をして安全に通行できるようにしなければならない。

- 問24.  この標識のある場所では、車体の長さが3.3メートルを超える車は通行できないことを示している。

- 問25. 路側帯が広い場合でも、白の実線と破線の表示のある路側帯では、その中に入って駐車することはできない。

- 問26. 道路交通法でいう「放置車両」とは、違法駐車と認められる場合における車両であって、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。

- 問27. 交差点を右折するとき、道路標識等により通行すべき部分が指定されていない場合は、交差点の中心の直近の外側を徐行して通行する。

- 問28. 車両は、対面する信号が黄色の場合は、停止位置に近づいていて安全に停止できない場合を除いて、停止位置をこえて進行してはならない。

- 問29. 自動車は歩道又は路側帯と車道との区別がある道路では、路側帯に歩行者がいない場合でも、路側帯にはみ出して通行することができない。

- 問30. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路で、けん引するための構造及び装置を有する自動車でけん引されるための構造及び装置を有する車両をけん引する場合の最高速度は時速80キロである。

- 問31. 車を離れるときは、エンジンを切り、完全にブレーキをかけるなど車が動き出さないような措置を講じる。

問32.  この標識のある場所は、普通乗用車と自動二輪車は通行できないが、それ以外の車両は通行できる。

問33. 仮免許練習標識を付けた車に対しては、幅寄せや割り込みを禁止する保護義務はない。

問34. 貨物の積卸しのための停止で10分以内のものは駐車にはならない。

問35.  この標識は、車線が減少することを示している。

問36. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路での貨物自動車の最高速度は、最大積載量や車両総重量にかかわらず、すべて時速60キロである。

問37. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合は、安全地帯に歩行者がいなくても徐行しなければならない。

問38. 道路外に出るために右折しようとする車が、道路の中央（一方通行路の場合は右側端）に寄ろうとして合図を出したときは、後方の車は急ブレーキや急ハンドルで避けなければならないような場合を除き、前車の進路変更を妨げてはならない。

問39. 高速自動車国道等において、緊急自動車が本線車道に入ろうとしているときや出ようとしているときは、その通行を妨げてはならない。

問40. 車両（自転車以外の軽車両を除く。）の運転者が同一方向に進行しながら進路を左方又は右方に変えるときの合図を行う時期は、その行為をしようとする地点から30メートル手前の地点に達したときである。

Ⅱ 構造機能（20問）

【4 肢択一式問題】

問41. 事業用貨物自動車の日常点検について、次の点検内容のうち、毎回点検することが義務づけられているものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。
- イ タイヤに異状な摩耗がないこと。
- ウ エンジン・オイルの量が適当であること。
- エ エア・タンクに凝水がないこと。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問42. 停止表示器材に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- 1. 停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。
- 2. 停止表示器材による反射光の色は、赤色であり、かつ、当該停止表示器材による蛍光の色は、赤色又は橙色であること。
- 3. 停止表示器材は、容易に組み立てられる構造であること。
- 4. 停止表示器材は、昼間100メートルの距離からその蛍光を確認できるものであること。

問43. 道路運送車両の保安基準に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 自動車の高さは、告示で定める方法により測定した場合において、3.8メートルを超えてはならない。
- イ 自動車の長さ（セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離）は、10メートル（セミトレーラのうち告示で定めるものは13メートル）を超えてはならない。
- ウ セミトレーラ以外の自動車で、最遠軸距が5.5メートル未満の自動車の車両総重量は、25トンを超えてはならない。
- エ 隣り合う車軸にかかる荷重の和は、その軸距が1.8メートル以上である場合にあっては20トンを超えてはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問44. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- 1. 定期点検整備は、毎年、3月と12月の2回実施すればよい。
- 2. 日常点検は、一日一回、その運行の開始前に実施しなければならない。
- 3. 点検整備記録簿は当該貨物自動車に備え置き、点検又は整備をしたときは遅滞なく必要事項を記載しなければならない。
- 4. 日常点検は、国土交通省令で定める技術上の基準に基づいて実施しなければならないが、この基準とは「自動車点検基準」のことである。

【○×正誤式問題】

次の問45から問60までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問45. 貨物の運送の用に供する普通自動車で、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上（最高速度が90キロメートル毎時以下の自動車等を除く）のものには、速度抑制装置を備えなければならない。
- 問46. 運行記録計は、24時間以上の継続した時間内における事故発生時の瞬間速度及びすべての2時刻間における走行距離を自動的に記録できる構造でなければならない。
- 問47. 自動車（被けん引自動車を除く）の前面ガラス及び側面ガラスは、交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分の可視光線の透過率が60%以上のものでなければならない。
- 問48. 日常点検の結果に基づいて運行の可否を決定するのは、運行管理者である。
- 問49. 貨物の運送の用に供する自動車（告示で定める自動車等を除く）で、車両総重量3.5トンを超えるものの前面には、告示で定める基準に適合する前部潜り込み防止装置を備えなければならない。
- 問50. 自動車は、自動車検査証を備え付けるか、又は国土交通省令で定めるところにより検査標章を表示しなければ運行の用に供してはならない。
- 問51. 自動車の軸重は、10トン（けん引自動車のうち告示で定めるものにあつては、11.5トン）を超えてはならない。

- 問52. 冷却装置のファン・ベルトの緩み及び損傷と水漏れの点検は、3か月ごとに行わなければならない。
- 問53. 車両総重量8トン未満の貨物の運送の用に供する自動車が、初めて自動車検査証の交付を受けた場合の有効期間は2年である。
- 問54. 車両総重量が8トン以上の自動車の車体の後面には、最大積載量のほか、車両総重量も表示しなければならない。
- 問55. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が7トン以上のものの後面には、後部反射器に代えて大型後部反射器を備えなければならない。
- 問56. 車線逸脱警報装置とは、自動車が走行中に車線から逸脱しようとしているか、又は逸脱していることを運転者に警報することにより、自動車の車線からの逸脱を防止する装置をいう。
- 問57. エンジンオイル量の点検は、平坦な場所で、エンジン始動直後に行う。
- 問58. 日常点検を行うときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、ギアをニュートラルにする。
- 問59. 道路運送車両法で定める「車両総重量」とは、車両重量、最大積載量及び60キログラムに乗車定員を乗じて得た重量の総和をいう。
- 問60. 自動車の排気管は、排気ガス等により自動車や積載物品が発火したり、制動装置や電気装置等の機能を阻害するおそれがないければ、右向きに開口していてもよい。

Ⅲ 運転常識（20問）

【4 肢択一式問題】

問61. 省エネ運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 省エネ運転を実行することで、窒素酸化物や二酸化炭素等の排出量が減少するだけでなく、安全運行の確保や経費の節減にも寄与する。
2. アクセルペダルを踏んだり戻したりする波状運転は燃費を悪くするので、アクセルペダルを一定にして走るのがよい。
3. 高速走行では、車速が速いほど燃費が良くなるので、時速80キロより時速100キロで走行するほうが経費節減につながる。
4. 急加速発進をすると燃費が悪くなるので、発進や加速はアクセルを踏み過ぎないようにゆっくりと行うようにする。

問62. 休息期間は継続した8時間以上が原則だが、業務の都合上、休息期間を分割して与える場合に関し、次のうち改善基準告示に違反しているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1.

拘束時間 4 時間	休息期間 5 時間	拘束時間 1 0 時間	休息時間 5 時間
--------------	--------------	----------------	--------------
2.

拘束時間 6 時間	休息期間 6 時間	拘束時間 8 時間	休息期間 4 時間
--------------	--------------	--------------	--------------
3.

拘束時間 7 時間	休息期間 4 時間	拘束時間 7 時間	休息期間 6 時間
--------------	--------------	--------------	--------------
4.

拘束時間 7 時間	休息期間 3 時間	拘束時間 7 時間	休息期間 7 時間
--------------	--------------	--------------	--------------

問63. 車の停止距離等に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 停止距離とは、空走距離と制動距離を合わせた距離をいう。
- イ 制動距離とは、運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離をいう。
- ウ 路面が濡れていると、制動距離が短くなる。
- エ 運転者が疲れていると、空走距離が長くなる。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問64. 次のア～エの記述のうち、事業用自動車の運転者が遵守すべき事項として、法令に定めのないものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の普通自動車である事業用自動車に乗務した場合で、荷主の都合により集荷地点等で待機したときは、乗務等の記録に荷待ち時間等を記録すること。
- イ 睡眠不足により安全な運転をすることができないおそれがあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出ること。
- ウ 乗務を終了して他の運転者と交替するときは、交替する運転者に対し、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について通告すること。
- エ 踏切を通過するときは、制動装置を操作しないこと。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問65から問80までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

問65. 踏切では、対向車との接触を避けるために、できるだけ左側に寄って通行する。

問66. 40キロメートル毎時で走行中の自動車の2秒間の走行距離は、約22メートルである。

問67. 1日（始業時刻から起算して24時間）の拘束時間は13時間以内を基本とし、延長する場合でも16時間が限度で、15時間を超える回数は1週間に付き3回が限度である。

問68. 集中豪雨のときは、ガード下などのアンダーパスやすりばち状の道路は冠水のおそれが高いため避けたほうがよい。

問69. 高速道路のトンネルや切り通しの出口などでは、横風にハンドルを取られることがあるので注意する。

問70. 休憩又は睡眠をした場合は、その地点及び日時を乗務記録に記載しなければならないが、15分未満の休憩についてはその記録を省略してもよい。

問71. 1日の運転時間は2日（始業時刻から起算して48時間）平均で10時間が限度である。

問72. 休日は、休息期間＋24時間の連続した時間をいい、いかなる場合であっても、この時間が29時間を下回ってはならない。

問73. 点呼は対面で行うのが原則で、運行上やむを得ない場合に限り電話その他の方法で行うことができるが、車庫と営業所が離れている場合や早朝・深夜等において点呼執行者が営業所に出勤していない場合などは「運行上やむを得ない場合」に該当する。

問74.  この貨物の荷扱い指示マークは、包装貨物が壊れやすいため注意して取り扱うことを示している。

問75. 荷物の位置が極端に荷台の後方又は片側に偏る積載は、「偏荷重を生じる積載方法」の一例である。

問76. 舗装道路では、雨の降り始めより雨の降り止む頃のほうがスリップしやすい。

問77. 動いている物や動きながら物を見るとき視力を動体視力というが、一般に動体視力は静止視力よりも低下する。

問78. 車両総重量が4トン以上の事業用自動車には、運行記録計による記録が義務づけられている。

問79. 車間距離が短くなると、無駄な加速・減速の機会が多くなり、燃費が悪化する。

問80. 事業者は、常時使用する労働者に対して1年以内ごとに1回（深夜業を含む業務に従事している労働者には6か月以内ごとに1回）健康診断を行わなければならない。労働者は事業者が行なう健康診断を受けなければならない。